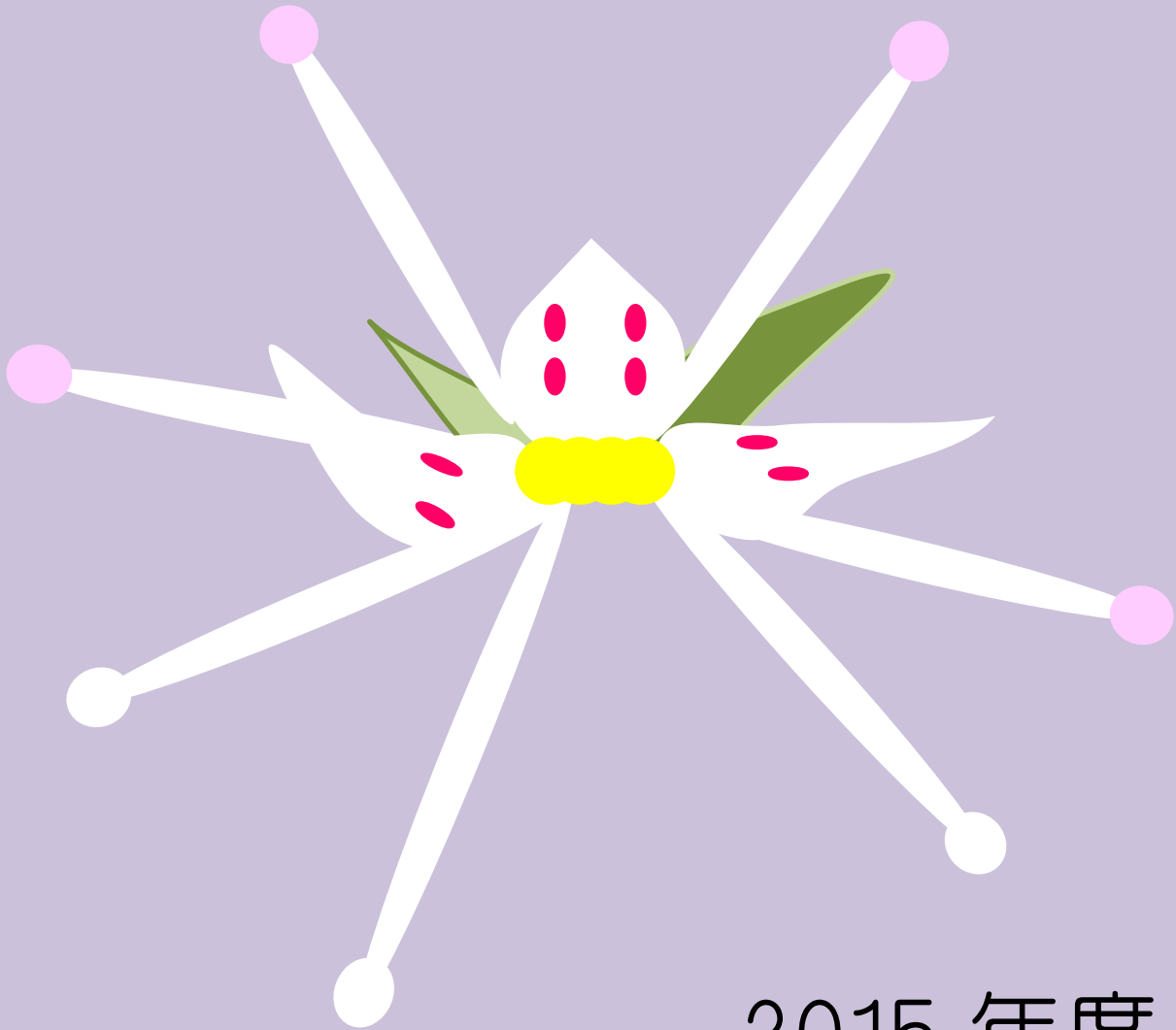




Doctoral & Master's Program in
Nursing Science

2015 Annual Report of Nursing Science



2015 年度
年報

筑波大学大学院人間総合科学研究科
看護科学専攻

も く じ

I. 看護科学専攻の組織運営	1
1. 看護科学専攻の目的、教育目標	1
2. 看護科学専攻の沿革	2
3. 看護科学専攻の組織	5
4. 看護科学専攻の施設・設備	11
II. 教育活動	13
1. 教育内容及び方法	13
2. 自発的な教育活動	13
3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム	15
4. 大学院教務・専攻事務の支援体制	18
III. 研究活動	20
IV. 学生支援	45
V. 社会貢献と国際交流	48

I. 看護科学専攻の組織運営

1. 看護科学専攻の目的、教育目標

1) 看護科学専攻博士前期課程および博士後期課程の理念と目的

看護科学専攻博士前期課程では、21世紀のわが国における看護領域の最先端研究と高度医療の実践を担う人材として、広い教養と深い人間理解に基づき、福祉、保健、行政、教育、国際協力等の幅広い領域に渡る知識と行動力を身に付けた看護教育者・研究者を目指す人、ならびに高い研究能力と管理能力を備えた高度看護専門職業人を育成します。

博士前期課程では看護学分野として、実践看護学と健康システム看護学の2分野を構築し、高い研究能力・管理能力と国際性を備えた高度看護専門職業人の育成、ならびに博士後期課程では医療、福祉、保健、行政、教育、国際協力等の幅広い領域にわたる知識と行動力を身につけた看護の臨床指導者・教育者・研究者の育成を目的とします。

2) 看護科学専攻博士前期課程の特色と教育目標

看護科学専攻博士前期課程では、科学的な根拠に基づいた看護の実践能力及び高度な専門性を有する看護の高度専門職業人の育成を行うと共に、看護の指導的な役割を担う教育者・研究者を育成しています。

看護科学専攻博士前期課程では、以下の能力の育成を目指します。

- ①科学的な根拠に基づいて看護を探求し、研究する能力
- ②看護における高度な専門的知識・技術・実践能力
- ③学際的な視点で看護を科学的に分析する能力
- ④国際水準の看護研究を志向できる能力

3) 看護科学専攻博士後期課程の特色と教育目標

看護科学における看護実践は、看護に関する不偏的な法則性を追求すること、また、経験的あるいは実証的な合理性を明らかにすることです。一方、これからの看護

職者においては、医療の進展、複雑化に伴って多職種との連携の機会がますます増える事が予想されます。よって、看護職者は多職種と対等に渡り合える高度な技術、専門的な知識を身につける必要があります。エビデンスに基づいた看護を提供していくためには、臨地においても研究的視点が重要であり、博士後期課程修了生が、高度医療を担う施設で指導者としてさらには看護教育・研究の推進者として活躍する場は多いと思われます。

博士後期課程では看護の実践と理論の架け橋となるための高度専門職業人・管理者、教育者・研究者、政策・行政分野の専門官として、博士(前期)過程で養った看護実践能力や研究能力を生かし、独自に看護実践を検証していくことのできる能力の育成を目指します。またさらに、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や、教育・研究方法を開発できる能力の育成を目指します。

したがって、博士後期課程は新たな学問領域の創造を目指し。既成の看護学領域にとらわれずに学融・学際的な発想を重視して、新しい看護科学の創造に向けて取り組もうとする立場から、教育課程は1領域(看護科学)で構成し、さらに、論文指導は複数教員による指導体制を設けています。

2. 看護科学専攻の沿革

1) 博士前期課程の沿革

我が国の保健・医療・福祉は、医学・医療の進歩や少子・高齢化、生活水準の向上など、医療を取り巻く社会環境や社会的要請の変化に伴い、複雑多様化し、かつ高度・専門化してきている中、平成15年度に筑波大学は、看護短期大学から看護・医療科学類として4年制大学になりました。平成18年度に看護・医療科学類が完成年度を迎えるにあたり、大学院進学を希望する学生の受け皿となり、専門性を高める看護の大学院として、また茨城県内の看護系大学生および看護師からの強いニーズに応えるため、平成19年4月に人間総合科学研究科に設置されました。

次代の社会的なニーズに応えるために「人間の生物身体的・教育福祉的・精神的の3側面を視野に入れながら人間に関わる総合科学の確立を目標」としている

筑波大学大学院人間総合科学研究科があります。その一専攻として設置された看護科学専攻は、従来の看護学が追求してきた「科学性」のみならず、看護学と他の融合可能な学問領域との学際融合を図り「人間の総合性」を「次代を担うエビデンスの思考に立つ新たな科学」の視点に立つ「専門性」を取り入れ、「実践看護学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」の3領域で教育が始まりました。

看護においては人々のQOLの向上を目指した、より専門的な知識と高度な看護技術、科学的根拠に基づいた的確な判断力を有した高度専門職業人の育成が求められ、平成22年度から専門看護師教育課程に関する科目の開講を始めました。平成23年度には「がん看護」「精神看護」、平成24年度には「慢性看護」が、専門看護師教育課程として日本看護系大学協議会より認可を受けました。専門看護師教育においては、積極的にe-learningを導入し、対面講義・演習との組み合わせにより、教育内容の拡充に努めてまいりました。

また、平成23年度に専門看護師教育課程以外の科目についてのカリキュラム改正を行い、設置時の「実践看護科学領域」「地域健康システム看護学領域」「環境看護学領域」3領域から、「実践看護学領域」「地域環境システム看護学領域」の2領域に再編しました。

平成26年度より高度実践看護教育のさらなる充実を図り、「家族看護」の専門看護師教育課程を追加し、日本看護系大学協議会より「がん看護」「精神看護」「慢性看護」「家族看護」の4分野において専門看護師教育課程(38単位)の認定を受けました。また同年より、学生の研究力と教育力を強化することを目指し、助産師教育課程を学士教育から大学院教育に移行し(文部科学省認定)て助産師養成教育を提供しています。

平成27年度までに博士前期課程を修了する学生は105名となります。修了生は、保健師、助産師、看護師、養護教諭あるいは大学教員として活躍し、成果をあげています。また5名の修了生が専門看護師試験に合格しています。

2) 博士後期課程の沿革

21世紀になり、医学、医療技術は目覚ましい進歩を遂げていますが、我が国の保

健・医療を取り巻く状況は、少子・高齢人口の増大、慢性疾患や生活習慣病の増加、新種の感染症の猛威など複雑で困難な健康問題が山積しています。これらの問題や課題を解決するためには、人びとの健康生活に最も近い存在としての看護職の果たす役割は大きいと思います。

開かれた大学としての役割・使命を謳う筑波大学は、研究利便性の高い筑波研究学園都市に設置されており、本学附属病院は茨城県における主幹病院であることから、研究はもとより教育の場としても充実した環境を誇っています。このような地域特性を生かしつつ、国際的レベルの教育・研究の拠点となることを目的として、平成 13 年に「人間総合科学研究科」が、平成 19 年 4 月には看護科学専攻博士前期課程が開設されました。人間総合科学研究科における看護科学専攻では、当初から看護学の「学際性」と「科学性」を基本理念とし、看護学の一層の学問的発展に向けた教育・研究を展開することのできる人材の育成を目的としていましたので、**看護科学専攻博士後期課程**の設置は、前期課程に続く当然の帰結として位置づけられていました。こうして、平成 21 年 4 月に人間総合科学研究科の改革理念・教育目標でもあった**看護科学専攻博士後期課程**が誕生しました。

健年、看護の専門性を高めるために看護教育の大学化が急速に進み、平成 19 年に 156 校であった看護系大学は平成 23 年には 200 校を超え、いまだ増加の一途をたどっています。こうした現状において、本学の看護科学専攻博士後期課程修了者は、教育者・研究者として我が国の看護を担うことを期待されています。

平成 26 年度からは、文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の中で地域基盤型高度実践看護師コースを開講し、博士後期課程における高度実践看護師の育成を開始しました。

本専攻は平成 25 年度 3 月に初めて修了生が誕生し、博士(看護科学)が授与されました。博士(看護科学)の授与は、1 名の論文博士を含め、平成 27 年度 3 月までに計 9 名となり、日本のさまざまな保険医療分野で将来有望なリーダーとして活躍しています。

3. 看護科学専攻の組織

1) 教務委員会

<前期課程修了に係る論文審査実施に関する活動>

- ・学位論文審査実施状況の把握
- ・修士論文審査申請に関するガイダンス実施
- ・H27年度修士論文発表会の開催(6/2, 12/21)
- ・修士論文審査に関する申合せ改正案の作成
- ・修士論文審査実施状況の把握

<後期課程修了に係る論文審査の実施に関する活動>

- ・博士学位論文審査実施状況の把握
- ・博士学位論文審査申請に関するガイダンス実施
- ・H27年度博士学位論文予備審査発表会ならびに本審査発表会の開催
- ・博士学位論文審査に関する申合せ改正案の作成
- ・博士学位審査論文審査実施状況の把握

<(前期課程)研究計画書審査・発表会の開催>

- ・副指導教員割振り案の作成
- ・H27年度研究計画書審査発表会の開催(4/24)

<(後期課程)研究計画書審査・発表会の開催>

- ・研究計画書審査委員案の作成
- ・H27年度研究計画書審査発表会の開催(4/24, 8/3, 12/21)

<カリキュラム管理>

- ・H28年度シラバス、時間割の管理・作成
- ・インターンシップ・看護科学特別実習の実施状況の確認、報告書の管理
- ・附属病院での実習の手続きの確認
- ・大学院便覧の管理
- ・教員の移動に伴う授業担当教員の変更

- ・前期課程・後期課程の講義内容の見直し
- ・海外招聘教員による特別授業に伴う授業日程の調整
- ・大学院生の CITI 利用手続きの整備
- ・前期課程学生に対する情報倫理セミナー開講についての検討

<各申請書類書式の見直し>

- ・学群生、科目等履修生の選考方法等規程の確認
- ・養護科目の変更内容の確認
- ・前期課程 学位論文提出書類の改訂
- ・前期課程 研究計画書審査評価表案の作成および報告書の改訂
- ・後期課程 研究計画書審査報告書の改訂
- ・修士論文複写の手続き案の作成

<研究領域・指導体制>

- ・研究領域・指導教員届(M1,D1,2)の確認
- ・既修得単位の認定
- ・前期課程の論文指導体制の見直し(研究指導担当、副指導教員)

<非常勤講師の照会・任用手続き案の作成>

<Clinical Nurse Leader 研修への参加者の審査と参加支援>

<学位プログラムの検討>

- ・届出書案の作成
- ・特定看護師養成に関する検討
- ・今後の方針の検討

<附属病院の病院利用者申請の手続きの確認>

<教員に対する重要書類の配布方法の見直し>

<授業評価の実施>

・授業評価を行い担当教員へ評価内容を伝え、コメントを得た

◆来年度への持ち越し課題：海外留学制度の充実、学位プログラムの具体の検討

2)入試委員会

＜平成 27 年度入学試験の実施状況＞

博士前期課程(一般・社会人)

	日程	志願者	受験者	合格者
入学試験	2015年8月18日19日	21名	21名	16名

博士後期課程

	日程	志願者	受験者	合格者
入学試験	2015年8月18日	4名	4名	3名
	2016年2月1日	4名	4名	3名

2014年度から博士前期課程では38単位の専門看護師(Certified Nurse Specialist: CNS)養成プログラム科目をがん看護、精神看護、慢性看護、家族看護の4領域で、また同時に助産師養成課程を開始している。

博士後期課程では、地域基盤型高度看護実践看護師養成プログラムを開講している。

今後も博士前期・後期課程の志願者数が増えるよう努力したい。

＜修了後の学生の進路動向調査・集計＞(平成24年度～平成26年度修了生)

	博士前期課程修了生	博士後期課程修了生
博士後期課程等への進学	7名	—
看護師	22名	2名
保健師(産業保健師含む)	9名	—
養護教諭	4名	—
大学教員	2名	5名
その他	6名	2名

<その他の活動>

- ・新入生オリエンテーションの実施・新入生歓迎会の実施
- ・休学および復学希望者への面接と相談
- ・国内外派遣に伴う旅費支援の提案と支援対象に関する審議
- ・平成 29 年度募集要項の再編

3) 広報・情報委員会

<看護科学専攻ホームページの更新>

受験生へのアピールを目指し、在校生・修了生からのメッセージや国際交流のほか、フォトギャラリーも充実させた。

アクセス解析の結果、スマートフォン・タブレットからの閲覧が過半を占める傾向がみられたため、端末によって表示レイアウトを最適化するレスポンシブデザインとなるように、ホームページ構成ファイルの更新をエフズフィールドに発注した。次年度から漸次更新していく予定である。

<入試説明会の開催>

平成 28 年度入学生のための説明会を以下の通り開催した。

日時：平成 27 年 6 月 19 日(金)17:00～18:30

場所：共同利用棟 B 講義室 2

参加者数：前期課程希望 53 人(前年度 61 人)

後期課程希望 5 人(前年度 9 人) 合計 58 人(前年度 70 人)

前年度の参加者をわずかに割った。今後、内部学類生への勧誘とともに、学外への発信をより強めていく必要がある。

<入試説明会参加者に対する調査の実施>

入試説明会参加者 50 人に調査協力を得た(回収率 86%)。入試説明会は大変参考になった(36%:前年度 34%)、参考になった(62%:前年度 70%)との回答であり、大方の満足は得られたと考えられるが、紹介内容の質を向上させる必要があるかもしれない。参考になった内容(重複回答)は、研究領域紹介(41 件:前年度 26 件)、在校生メッセージ(27 件:前年度 39 件)、入試に関する説明(16 件:前年

度 29 件)、長期履修制度の説明(16 件)、助産師コースの説明(13 件)、国際交流協定校の説明(9 件:前年度 8 件)の順であった。今年度は研究領域の紹介が比較的満足度が高かったようだが、受験生の関心が比較的高いのは例年在校生メッセージであり、紹介時間を確保することが望ましいと考えられる。入試説明会の情報入手方法はホームページからが 34 件(前年度 31 件)と最も多く、引き続き、ホームページを充実させていく必要がある。

4)FD・自己点検評価委員会

本委員会の平成 27 年度の活動目標は、前年度に引き続き、専攻の各教員の能力開発・向上を推進するための FD 講演会と研修会の実施と専攻内の教育状況の改善、各教員の教育技術の向上のために、授業評価方法等の更なる検討を行なうという 2 つの目標を中心に活動を展開してきた。

各教員の研究及び教育方法の能力向上のための FD 講演会、研修会においては、先駆的な看護研究及び教育を実施している海外の看護系大学の教員を招聘し、講演会及び意見交換会を 3 回実施した。3 回の FD 講演会、研修会を通して、Clinical Nurse Leader(CNL)の活動内容と本学の地域基盤型高度実践看護養成プログラムとのかかわりや緩和ケアも含めた本学との共同研究や教育の協力、そしてグローバルな視点からの看護研究及び教育のあり方等について、海外の看護系大学教員と活発、そして有意義な意見交換ができ、本専攻の看護科学研究、教育の今後の方向性を確認することができた。参加した教員のアンケート等からも、グローバルな視点からの看護科学の研究と教育指導方法のあり方や本専攻の研究学位、高度実践専門学位等の学位プログラム化に向けたカリキュラムの改善等について、大いなる示唆を受けた旨の高評価が多かった。

上述した FD 活動実績は、平成 27 年度の人間総合科学研究科 FD 奨励賞を受賞した。

また、本年度から変更された専攻後期課程の科目等については、博士論文作成上、重要な科目として位置づけられるものとして変更したもので、変更後の科目の授業評

価における分析をしていくとともに、専攻の全科目の授業評価方法についても、教育状況の改善のため引き続き検討していくこととした。

看護科学専攻の年報について、本年度も作成したが、本専攻の客観的な実績であるとともに、各教員の自己点検評価の参考資料ともなり、また本専攻がより良い教育組織として前進するための基礎資料であるので、今後とも作成を継続していく所存である。

5)ICT 委員会

この委員会は、昨年度、看護科学専攻におけるグローバルな視点からの ICT 教育機能の発展のために活動することを目的に設置された委員会である。今年度は、昨年度に引き続き、筑波大学で導入している学習管理システム manaba の看護科学専攻教員の活用状況について調査した。

調査の時期は、2015年8月下旬～9月下旬で、看護科学専攻全教員を対象に、現在、manaba で使っている、あるいは使っていない機能とその理由、使いたいが使えなくて困っている機能とその理由、あったらよいと思う機能、manaba に関する FD への要望等について自由記載で回答を求めた。

4名の教員からの回答の結果、現在使っている機能は、主に学類の授業で、学生に事前準備や教科書の通知をするために「コースニュース」、授業資料を置いておくために「コースコンテンツ」、回収の手間を省くために「レポート」が使用されていた。具体的には、事前資料の提供やレポート課題の提出・回収で、評価の一斉通知にも使用していた。なかには、自身の授業のコマ数は少なく、授業内での課題提示で不都合を感じなかったため使用しなかったが、1つの科目に複数の教員が授業に関わる場合、他教員がどのような課題・スケジュールを学生に information しているのかを確認する程度に使用したという意見もあった。また、使用中にトラブルはあったが、その後解決し問題なく使用できるようになったというケースもあった。

受講生が少ない授業では、manaba を使っていない場合があり、学生とは直接メールで連絡することが多いとのことだった。それ以外にも、対話やディスカッション、小テストなどの機能を使っていないとのことだった。使用していない機能は、知らないから使用して

いない可能性が高く、使用していないことを特定すること自体が難しいとの意見もあった。

使いたいが使えなくて困っている機能としては、「プロジェクト」の「グループ」の設定の仕方、「小テスト」の使用方法が挙げられた。

あったらよいと思う機能については、今のところ満足している、特にない、ということだった。

manaba の FD の開催にあたっては、特に要望はなかった。しかし、manaba の利点・欠点を十分に理解できていない状況であり、どのような使い方が学生・教員の双方にとってよいのかを考えていきたいとのコメントがあることから、このような点を踏まえた FD の企画が今後必要と考えられる。

4. 看護科学専攻の施設・設備

1) 施設設備委員会

＜今年度の活動目標＞

共同利用棟 B、4B 棟および健康医科学イノベーション棟を中心とした研究教育環境の充実と管理運営のための会議室やセミナー室など、専攻に関わる諸室の調整と有効活用を目標とした。

＜今年度の活動・報告内容＞

1. 専攻に関わる耐震改修が終了した。学系棟3期工事も終了しつつあり、教育管理環境の整備が整った。
2. 校内禁煙活動のワーキングによって、病院地区でタバコの吸殻が目立つことが報告されていたが、今年度はかなりの改善がなされた。
3. 臨床講義室・医学図書館の改修工事が終了し、臨床講義室 B、C の音響設備等の整備が行われた。
4. イノベーション棟の入居者見直しについて検討が始まった。施設利用小委員会に WG を設置され、ルールを作成することとなった。

5.施設委員会の共同利用施設委員長から、工作室に 3D プリンタを導入したことについて報告があり、積極的な利用推進が求められている。

6. 健康医科学イノベーション棟の入口部分の自動扉が設置された。

<次年度に向けた課題>

医学地区の将来計画に伴って、看護科学専攻の教育環境の地固めを行う。とくに、チューリアルやオスキー等で活用している医学群 4C 棟は平成 18 年竣工、4D 棟は平成 16 年に竣工している。両棟とも簡易プレパブのため、耐周年数は 20 年程度と予想され、10 年後の平成 36 年（2024）年には使用することが難しくなると考えられる。今後、チューリアル教室の維持・確保が課題である。研究スペースとして、イノベーション棟は、原則として 5 年毎に入居グループの見直しが行われ、生命医科学域および保健医療学域の研究グループを中心に使用する方向で整備する。一方で、学系棟は、将来的には臨床医科学域を中心に使用する方向で整備する。医学 E 棟は医学関連の研究センター、とくに T-CReD を中心とした研究グループなど、戦略的に使用する場として整備する。

Ⅱ. 教育活動

1. 教育内容及び方法

看護科学専攻博士前期課程は、「実践看護学」「健康システム看護学」の 2 領域によって構成されている。これらの 2 領域がそれぞれ複数の専門科目を開講すると共に、看護科学特別実習や看護科学特別研究といった各専門に共通な科目も開講している。また、専門科目の基礎となる科目として 17 の『専門基礎科目』を開講している。その他に、『大学院共通科目』の履修を奨励し、学生の学際的視野を広げる努力をしている。専門家養成としては、助産師国家試験受験資格に対応した科目の開設、ならびに 38 単位課程によるがん看護、慢性疾患看護、精神看護、家族支援看護の専門看護師(CNS)教育課程基準に対応した科目も開講しており、がん看護、精神看護及び家族看護の CNS 教育は「実践看護学」領域、慢性疾患看護の CNS 教育は「健康システム看護学」領域において学ぶことができるようになっている。

看護科学専攻博士後期課程では、専門的な分野での卓越した研究を実施するために、研究・教育者としての基本的な資質向上を基盤とし、新たな看護の技術や教育・研究方法を開発できる看護科学の研究者を育成するカリキュラムを編成している。また、高度実践看護師養成のための講義も開設している。

※詳細は、授業科目一覧を参照

2. 自発的な活動

1) 勉強会

【参加者】

阿部吉樹助教、大学院生(主に慢性看護学領域の前期課程、後期課程の学生、他領域の参加希望者)

【内容】

(1)論文を読んだり、書いたりするための基礎となる論理学および統計学の基礎について、討議を通して、理解を深める。

(2)参加者各自が読んでいる論文で、「よくわからない」点につき、参加者全員で討

議し、何がわからないのか、勉強すればわかるようになるのかを明確にし、各自の学習課題を明らかにする。

【日時・内容】

開催日時は参加者で相談して決定した。使用図書は定めず、各回、阿部助教が準備した資料をもとに討議を行った。参考図書は適宜紹介した。

第 1 回(8/20)	テーマの確認
※(8/27)	マルチレベル分析
第 2 回(9/2)	論文には何が書かれているのか？ Research Question, PICO/ PECO
第 3 回(9/9)	論文はどのように書かれているのか？ STROBE と CONSORT
第 4 回(9/16)	論理という〈ルール〉 概念と命題，論理，論証責任の考えと Toulmin 法
第 5 回(10/9)	論証という〈説得の方法〉 推論，演繹法，帰納法，類推，弁証法
第 6 回(11/6)	論文に書かれていることは正しいのか？ クリティーク，誤謬 統計の役割，質的研究と量的研究、尺度とデータ
第 7 回(11/13)	記述統計 データの整理，1 変数の記述，度数分布表，ヒストグラム
第 8 回(11/20)	記述統計 1 変数の記述，度数分布表，ヒストグラム，代表値， 散布度，標準化
第 9 回(11/27)	記述統計 2 変数の関係の記述

第 10 回(12/4)	記述統計 2 変数の関係の記述, 相関と回帰
第 11 回(12/18)	推測統計 推測統計の原理, 確率, 確率変数, 確率分布
第 12 回(1/8)	推測統計 確率, 確率変数, 確率分布
第 13 回(1/15)	推測統計 母集団と標本の関係
第 14 回(1/18)	推測統計 母集団と標本の関係
第 15 回(1/25)	推測統計 推定, 統計的検定
第 16 回(2/5)	推測統計 推定, 統計的検定

3. 教育の成果と教育の質の向上及び改善のためのシステム

1)FD 活動実績と今後の課題

先駆的な看護研究及び教育を行なっている海外の看護系大学の教員を招聘し、本学専攻教員と意見交換することで、看護科学研究と教育のこれからの方向性を考え、教育・研究指導の質の向上を図ることを目的として、本年度は 3 回 FD 講演会、研修会を実施した。

第 1 回は、平成 27 年 6 月 13 日(土)10:00~14:30 に4B 棟会議室 104 号室において、聖アンソニー看護大学の 4 名の教員と本専攻の教員 10 名の計 14 名の参加により、「これからの看護教育のあり方を考える~Clinical Nurse Leader(CNL)を地域基盤型高度実践としてどう活用し教育するか」というテーマで意見交換した。CNL が取得でき、活動を展開している聖アンソニー看護大学、メディカルセンターでの実践、研究報告等を受け、本学専攻における今後の研究教育の方向性について、活発な

議論が行なわれた。

第2回は、平成27年8月7日(金)13:00～15:00に共同利用棟Bの107号室において、国立台湾大学の3名の教員と本専攻の教員8名の計11名の参加により、「国立台湾大学と筑波大学間の共同研究や教育の協働について」というテーマで意見交換した。台湾における看護教育の現状及び研究課題等について情報交換し、緩和ケアも含めた共同研究や教育のこれからの連携等について、有意義な議論が行なわれた。

第3回は、平成27年9月27日(日)16:00～17:00に4B棟会議室104号室において、University of Illinois at Chicagoの教授と研究生の2名と本専攻の教員9名の計11名の参加により、「グローバル社会の中で女性や看護師がどのように活躍できるか」というテーマで意見交換した。グローバルな視点からの看護の研究、教育を実践しているイリノイ大学の研究報告等から、本専攻における看護研究及び教育のあり方等について、有意義な示唆を受け、今後の高度実践看護師等の養成、教育の方向性について確認した。

以上の第1回のCNLの高度実践看護専門職教育、第2回のアジアでの先駆的看護研究等、そして第3回のグローバルな視点での看護研究など、先駆的かつ高度な看護研究及び教育を実践している海外の看護系大学の教員との意見交換等の研修会を通して、本専攻の看護科学研究、教育の今後の方向性を確認することができたとともに、専攻の各先生方の研究及び教育の質の向上につながったといえる。なお、この専攻のFD活動については、平成27年度人間総合科学研究科FD奨励賞を受賞した。

また、平成27年度から変更された後期課程の科目を含めた、本専攻の各科目の授業評価方法、アンケート方法等について検討を進め、更なる教育状況の改善に努めていくことが今後の課題といえる。

<本年度の学位論文のテーマ>

看護科学専攻博士後期課程

南雲 史代

「低出体重児の相互コミュニケーション能力に関する研究
—Communicative Musicality 理論を活用した音響分析—」

能町しのぶ

「母親の自尊感情とその関連要因の研究 —妊娠糖尿病妊婦における検討—」

看護科学専攻前期課程

小貫 衣澄

「病院看護師の Presenteeism の実態と抑うつ、Absenteeism との関連」

福本 純子

「乳がん術後のリンパ浮腫対策として看護師が行う患者教育の実態調査」

上村 真衣子

「妊娠女性における隠れ肥満とその特徴」

大平 采音

「高校生のデートDV 経験および予防に関連する要因の検討」

河和 明日香

「フォンタン手術を経験した子どもを持つ母親の体験
- 出来事と対処および認知に着目して -」

佐藤 美央

「統合失調症者の対人機能における心の理論とワーキングメモリの関連」

島崎 龍之介

「病院看護師における慢性疲労の関連要因の検討
—ワーカホリズムおよび・ワーク・ファミリー・コンフリクトとリカバリーに焦点を当てて—」

秦 千晴

「造血器悪性腫瘍患者に関わる看護師が終末期ケアに対して抱く困難感」

増田 江美

「小児救急・集中治療領域における心肺蘇生中の家族の立ち会いと看護師の認識・自信の実態及びその関連要因」

山口 慶子

「先天代謝異常症児と家族の QOL の実態および関連因子の検討
ー生活の医療社会面に焦点を当ててー」

吉成 舞

「月経周期と嗅覚感受性の関係」

陳 宥伶

「病院看護師における仕事のストレスが精神健康、バーンアウトおよび離職意思
に及ぼす影響」

張 紹慧

「乳幼児を持つ在日中国人母親のQOLの関連因子」

UMMI PRATIWI RIMAYANTI

「NURSES' APPROACH TOWARDS HEALTH RELATED QUALITY OF LIFE
(HRQOL) IN CANCER PATIENT' S CARE IN INDONESIA
(看護師のがん看護実践における健康関連 QOL に対するアプローチ)」

4. 大学院教務・専攻事務の支援体制

看護科学専攻は、大学院教務ならびに看護科学専攻事務から学生に対してさまざまな支援を受けている。主な支援内容を下記にまとめる。

＜大学院教務の学生に関する主な支援業務＞

1. 看護科学専攻の入学試験
2. 学位記授与式、新入生オリエンテーション
3. 大学院生のTA関係業務
4. 外部資金申請関係(文科省等)
5. 学生の派遣・受け入れ関係
6. 非正規性受入れ関係(科目等履修生、研究生)
7. 成績管理関係
8. 非常勤講師関係

9. 学籍異動関係
10. 授業料債権関係
11. 学外実習関係
12. 専修免許関係
13. 調査・統計関係

<看護科学専攻事務の学生に関する主な業務>

1. 相談対応
2. 入学時オリエンテーション準備
3. 提出物等の受取
4. 郵便物の配布
5. 授業教室の予約
6. 教室予約受付・管理
7. H27 年度共同利用棟 B106・107・204・205・206・207
8. ロッカーキーの貸出・管理
9. 印刷機、備品の管理
10. 消耗品(トナー、インク、用紙)の交換
11. TA 任用、管理
12. メール配信：ほとんどが大学院教務、学生支援からの依頼による学生へメール配信
13. 各発表会、審査会サポート
14. 入試の準備・手伝い
15. 学位記授与式の準備・手伝い
16. 予算管理

Ⅲ. 研究活動

1. 教員・学生の個人業績

※教員の個人業績については TRIOS 参照

<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

A. 母性看護学・助産学研究グループ

- 教授 江守陽子
- 准教授 村井文江
- 助教 川野亜津子
- 助教 山海千保子

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 所恭子

<出張講座>

- 1) 平成27年度 助産師、医師等が伝える「いのちの教育(中学校)」
(日立市医療連絡協議会事業)
日立市立多賀中学校 7月10日(金)
日立市立豊浦中学校 10月23日(金)
- 2) 高校生におけるライフプラン教育
(日立市思春期教育・保健事業)
広域通信制・単位制高校 翔洋学園高校 9月18日(金)

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 南雲史代

<学会発表>

- 1) 熊田純子・西村絵里子・藤谷薫・菅原美知子・野村信・南雲史代・谷澤伸次・荒井志保(2015). 当院における褥瘡ワーキングメンバーと専任看護師の褥瘡管理に対する意識と活動の実態.第12回日本褥瘡学会 関東甲信越地方会学術集会.

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 能町しのぶ

<論文>

- 1) Lai, C. M., Mak, K. K., Cheng, C., Watanabe, H., Nomachi, S., Bahar, N., Young, K. S., Ko, H. C., Kim, D., Griffiths, M. D.(2015). Measurement Invariance of the Internet Addiction Test Among Hong Kong, Japanese, and Malaysian Adolescents. *Cyberpsychol Behav Soc Netw*,18(10),609-17.

<学術講演・学会発表>

- 1) Watanabe, H., Nomachi, S., Honda, Y., Fukuda, S., Sato, Y., Sugiyama, T.(2015, 15-18 April). Gestational diabetes mellitus and subsequent development of abnormal glucose tolerance in Japanese women. The 8th international DIP Symposium Diabetes, Hypertension, Metabolic Syndrome & Pregnancy, Berlin, Germany.
- 2) Nomachi, S., Watanabe, H., Honda, Y., Fukuda, S., Sato, Y., Sugiyama, T.(2015, 20 - 22 July). The impact of early diagnosis gestational diabetes mellitus on pregnancy outcomes in Japanese women. The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015, Yokohama, Japan.
- 3) 田中弥生・能町しのぶ・渡邊浩子 (2015, 10月15・16日). 1ヶ月間のベビーマッサージが5ヶ月児の身体的発育と発達に及ぼす効果.第56回日本母性衛生学会総会・学術集会,盛岡,日本.
- 4) 渡邊浩子・田中弥生・能町しのぶ (2015, 10月15・16日). 大脳皮質活動から評価するインファントマッサージのリラックス効果の検証.第56回日本母性衛生学会総会・学術集会,盛岡,日本.
- 5) Watanabe, H., Nomachi, S., Kim, D.(2015, 23 October). The Effects of Internet and Smartphone Use on Mental Health among Japanese adolescents International Society of Internet Addiction (ISIA) Annual Conference Osaka, Japan.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金(交付額 100 万円)

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 VASCONCELOS DOMINGUEZ

CUNHA.MILLEANNI

なし

□看護科学専攻博士後期課程 2 年 龜山千里

<学会発表>

- 1) 鈴木悦子・龜山千里・深澤千映子.(2015, 6 月). 重度の脳奇形と診断された児の親子関係形成支援における倫理的問題への介入,日本看護倫理学会第 8 回年次大会,79,神戸,日本.
- 2) 中島奈央美・龜山千里・深澤千映子.(2015, 10 月). 終末期にある 18トリソミー児のきょうだい面会をめぐる父親と看護者の考え方の相違. 第 25 回日本新生児看護学会講演集,77,岩手,日本.
- 3) 藤倉悠佳・龜山千里・鈴木悦子・深澤千映子.(2015):NICU における早期新生児死亡の可能性がある児の親に対する親子関係形成および親となる過程を支えるケア. *日本農村医学会雑誌*,64(3),377.
- 4) 深澤千映子・龜山千里・鈴木悦子.(2015, 11 月). 低出生体重児の訪問指導を担う市町村保健師を対象とした研修会の開催—NICU における取り組み—. *日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会*,247,富山,日本.

<社会活動>

- 1) 茨城県土浦保健所 妊娠・出産に関する相談支援者研修会 講師
- 2) 茨城県看護協会 平成 27 年度訪問看護支援事業訪問看護専門分野研修 (小児・重症心身障害児)講師
- 3) 一般社会法人日本小児看護学会教育委員会 2015 年度研修会 講師
- 4) 茨城県看護協会 平成 27 年度実習指導者講習会 講師

- 5) 茨城県立中央看護専門学校 3年課程非常勤講師(小児看護学)
- 6) 茨城県立結城看護専門学校 3年課程非常勤講師(小児看護学)
- 7) 茨城県土浦看護専門学校 3年課程非常勤講師(小児看護学)

□看護科学専攻博士後期課程 2年 安藤美香
なし

□看護科学専攻博士後期課程 2年 菱谷純子
なし

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 石原 望

<学会発表>

- 1) 石原望・鶴田裕里恵・村井文江.(2016, 3月29日). ペリネイタル・ロスの質向上を促進するデスクンファレンスの検討 ～カンファレンス出席者へのインタビューの質的分析～.第29回日本助産学会学術集会.

<出張講義・出張講演>

- 1) 埼玉県杉戸町立杉戸小学校 第五学年総合授業「生きる ぼくわたしの命」

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 上村真衣子

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 大平采音

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 吉成舞

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 張紹慧

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 近藤瞳

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 櫻井真帆

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 杉浦実歩和

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 飯塚早奈英

B. 小児看護学研究グループ

■准教授 古谷佳由理

■准教授 涌水理恵

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 平賀紀子

<論文>

1) 飯島佳織・丸光恵・前田留美・矢内俊弘・連利博・平賀紀子・山高篤行・濟陽寛子
(2015). 思春期・若年成人期の直腸肛門奇形患者の排泄・性・生殖機能と不安の
特徴. *医療の広場*, 55(9), 18-22.

<学会発表>

- 1) 平賀紀子・大平明日香(2015). 医療的ケアを必要とするこどもの教育支援 同級生に対する説明の効果. *小児保健研究*, 74, 194.
- 2) 大平明日香・平賀紀子(2015). 医療的ケアを必要とするこどもの教育支援 看護師による同級生への説明, *小児保健研究*, 74, 194.
- 3) 平賀紀子・古谷佳由理(2015). 思春期・青年期にある血液疾患患者のヘルスリテラシー、*日本小児血液・がん学会雑誌*, 52(4), 429.
- 4) 北崎裕子・関野晴美・平賀紀子(2015). 疼痛アセスメント用紙の作成と効果、*日本小児血液・がん学会雑誌*, 52(4), 390.
- 5) Hiraga, N. & Furuya, K.(2016). The experiences of adolescent with pediatric chronic disease for acquiring health literacy, *Asia Pacific Congress of Pediatric nursing*.

6).Furuya.K. & Hiraga. N.(2016). Thought of the patients 18 years or older about the pediatric outpatient consultation, Asia Pacific Congress of Pediatric nursing.

<その他>

茨城キリスト教大学看護学部 3 年生対象 小児看護学Ⅱ(小児の健康障害と看護)慢性疾患・長期入院の子どもと家族への看護 非常勤講師

□看護科学専攻 博士後期課程 1 年 小澤典子

- 1) 小澤典子・古谷佳由理・石川由美香.(2015). 陽子線治療を受ける子どもの母親の体験—転院による体験に着目して—. 小児看護学会 第 25 回学術集会講演集,143.
- 2) 小澤典子・古谷佳由理・石川由美香.(2015). 陽子線治療を受ける子どもの母親の体験,小児がん看護 10 卷(2),434.
- 3) Ozawa. N., Furuya.K. (2015, 28-30 September). Impact on the mother of preparation to children receiving proton beam therapy. Tsukuba global science week 2015 -The 10th Tsukuba Medical Science Research Meeting-.(Student Presentations)

□看護科学専攻 博士前期課程 2 年 河和明日香

□看護科学専攻 博士前期課程 2 年 増田江美

□看護科学専攻 博士前期課程 2 年 山口慶子

<論文>

- 1) 涌水理恵・藤岡寛・沼口知恵子・西垣佳織・佐藤奈保・山口慶子.(2015).在宅重症心身障がい児と生活を共にする母親・父親・きょうだいの認識する自己役割、他の家族員への役割期待、家族としてのサポートニーズ. *国際ナショナル Nursing Care Research*, 14(4),1341-7.

- 2) Wakimizu, R., Yamaguchi, K., Fujioka, H., Numaguchi, C., Nishigaki, K., Sato, N., Kishino, M., Ozawa, H., Iwasaki, N. (2016). Assessment of Quality of Life, Family Function and Family Empowerment for Families Who Provide Home Care for a Child with Severe Motor and Intellectual Disabilities in Japan. *Health, 8(4)*, 304-17.

<学会発表>

- 1) 山口慶子・涌水理恵.(2015). 先天代謝異常症児と家族の生活実態に関する文献検討 支援ニーズ、看護の役割、今後の課題に焦点を当てて. 小児保健研究 74 巻講演集, 116.(一般演題 01-021)
- 2) 涌水理恵・山口慶子.(2015) :在宅重症児家族の支援ニーズと専門職による実践の現状および必要度の評価～デルファイ法を用いて～. 日本看護学会第 25 回学術集会 講演集. (一般演題 0-10)
- 3) Yamaguchi, K., Wakimizu, R.(2015, 28 September). The requisite support regarded by medical professionals for children with inherited metabolic disease and their families :a literature review. Tsukuba global science week 2015 -The 10th Tsukuba Medical Science Research Meeting-.(Student Presentations 0-11)

C. がん看護・緩和ケア研究グループ

- 教授 水野道代
- 助教 笹原朋代
- 助教 山下美智代

□看護科学専攻 博士後期課程 3 年 飯塚麻紀

<論文>

- 1) 飯塚麻紀・藤尾祐子・志賀令明・岡谷恵子.(2016).「患者信頼スケール—家族用」の信頼性および妥当性の検討.順天堂大学保健看護学部紀要,4,13-22.

<その他>

- 1) 順天堂大学保健看護学部 第6回公開講座 実行委員・講師 「知っておきたい！災害時、私自身にできること！」2015、8月

□看護科学専攻 博士後期課程3年 金久保愛子

<論文>

- 1) 金久保愛子,塚本尚子.(2015).看護基礎教育における看護実践能力の主体的習得に関する文献の検討.上智大学看護学科紀要,1,33-42.

□看護科学専攻 博士後期課程3年 佐藤幹代

<学会発表>

- 1) 佐藤幹代・高橋奈津子・森田夏実・仙波美幸・城丸瑞恵.(2015,7月).「DIPEX-Japan:乳がんの語り」の映像からリハビリテーション看護において学生はどのような支援を学んだか?.日本看護学教育学会誌(0916-7536)25 学術集会講演集,174.(口演)
- 2) 佐藤幹代・佐藤(佐久間)りか・濱雄亮・高橋奈津子・射場典子.(2015,5月).「慢性の痛みの語り」データベース構築の試み.保健医療社会学論集(1343-0203).26 巻特別,37.
- 3) 佐藤幹代・佐藤(佐久間)りか・濱雄亮・高橋奈津子・射場典子.(2015.8)「健康と病いの語り」データベース構築に関する歴史的背景 ～イギリスの先行例からみた日本の取り組みについて～.日本看護歴史学会第29回学術集会講演集,49-50.札幌,日本.(口演)
- 4) 森田夏実・射場典子・佐藤幹代・瀬戸山陽子・仙波美幸・和田恵美子.(2015,7月).患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶか(Part3) 健康と病いの語りデータベース(DIPEX-Japan)の教育用ページの活用.日本看護学教育学会誌(0916-7536)25 巻

学術集会講演集,106.徳島,日本。(口演)

- 5)本間真理・佐藤幹代・城丸瑞恵・池田望.(2015).ドイツの「慢性の痛み語りデータベース」からみた慢性痛の特徴.日本リハビリテーション医学会北海道地方会資料集.
- 6) Morita, N., Iba, N., Sato,M., Goto, K., Wada, E., Setoyama, Y., Aoki, A., Nakamura, C., Akimoto, R., Hirono, Y., Semba, M., Sakuma Sato, R., Beppu, H.(2015,June).Development of New Educational Program Using Patients ' Narratives in DIPEX-Japan, International Congress, Illness Narratives in Practice University of Freiburg Department of Psychology Rehabilitation Psychology and Psychotherapy, Freiburg,Germany.
- 7) Kadobayashi, M., Shiromaru, M., Nakada, M., Honma, M., Sato, M., Ito, T.(2015.5).From “Sociological Study of Tobyo-ki” to “Clinical Application of Caring through Writing, 14th World Congress of the European Association for Palliative Care, Abstract book,134 Copenhagen, Denmark.
- 8) Kadobayashi, M., Shiromaru, M., Nakada, M., Honma, M., Sato, M., Ito, T(2016,March).Evaluation of a Program for Cancer Survivors on Clinical Application of Writing, Paper presented at the 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2016),Chiba, Japan.

<競争的資金獲得状況>

- 1) 平成 27 年度 科学研究補助金(基盤 B) 佐藤幹代(研究代表者)「慢性の痛み語り」データベース構築と生活の再構築に関する研究(期間:平成 26 年~28 年 予定)
- 2) 平成 27 年度 科学研究補助金(挑戦的萌芽)佐藤幹代(研究代表者)「慢性の痛み語り」の映像を用いた慢性痛患者への看護支援モデル構築と評価(期間:平成 27 年度 予定)
- 3) 平成 27 年度 科学研究費補助金(基盤 C)佐藤幹代(研究分担者)患者・医療者・研究者共同による乳がん患者の手術後退院支援モデルの構築(期間:平成 27 年度~29 年度)

- 4)平成 27 年度 科学研究費補助金(基盤 C)佐藤幹代(研究分担者)「乳がん・子宮がん患者を対象にした「書く」ことでのケア:臨床応用をめぐる縦断的研究」(期間:平成 25 年~27 年)
- 5)平成 27 年度 科学研究費補助金(基盤 C):佐藤幹代(研究分担者)乳がん患者の語りにみる手術後の苦痛の経時的変化と対処方法に関する研究(期間:24 年~27 年)

<社会的活動、講義・講師>

- 1) 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター非常勤 感染管理認定看護師教育課程「感染管理指導と相談」演習科目 担当
- 2) 東海大学健康科学部看護学科 リハビリテーション看護論(2015.4~6)
- 3) 東海大学健康科学部看護学科 成人看護学実習 B 科目責任(~2015.8)
- 4) 自治医科大学看護学部 成人実践看護学Ⅳ 科目責任(2015.9~)
- 5) 自治医科大学看護学部 成人継続療養看護実習 分担(2015.9~)
- 6) 自治医科大学看護学部 成人実践看護学Ⅲ 分担(2015.9~)
- 7) 自治医科大学看護学部 生涯発達看護学概論Ⅲ 分担(2015.9~)
- 8) 自治医科大学附属さいたま医療センター看護部 看護研究指導(2016.1~)

公的な委員

- 1) 財団法人 神奈川県看護協会 緩和ケア認定看護師教育課程入試委員
- 2) 認定非営利活動法人「健康と病いの語り ディベックス・ジャパン」運営委員

□博士後期課程 3 年 牟田理恵子

<競争的資金>

- 1) 2015 年度公益財団法人笹川記念保健協力財団ホスピス緩和ケアに関する研究助成:終末期がん患者家族と看護師との End-of-Life Discussion ガイドラインの開発と教育的介入効果の検証 ー納得のいく最期を迎えられるためにー:牟田理恵子(研究代表者)

□看護科学専攻 博士後期課程 1年 根本紀子

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 福本純子

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 秦 千晴

□看護科学専攻 博士前期課程 2年 Ummi Pratiwi Rimayanti

D. 精神保健看護学研究グループ

■教授 森千鶴

■准教授 岡田佳詠

■准教授 三木明子

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 大森圭美

<論文>

1) 大森圭美・RIEDFORD, K.・森千鶴.(2015).看護師と看護補助者の役割と教育一日米比較一.看護教育研究学会誌,7(1),59-67.

<学会発表>

1) OMORI, Y., RIEDFORD, K., MORI, C., SAEKI, K., TANAKA, R., MATSUMOTO, K.(2015).Comparison of Nursing Students' Perception toward Alcohol Abuse between the United States and Japan, 29th APNA Annual Conference.

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 黒田梨絵

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 小山達也

□看護科学専攻博士後期課程 3年 角智美

<論文>

- 1) 角智美・森千鶴・水野道代.(2015).終末期ケアに携わる看護師のストレスに関連する要因.看護教育研究学会誌, 7(1),49-58.

<社会的活動>

- 1) 看護教育研究学会役員 書記
- 2) 第10回,第11回茨城県 ELNEC-J 研修会 実施責任者

□看護科学専攻博士後期課程 3年 関根正

<著書>

- 1) 関根正・菅谷智一.(2015).自閉スペクトラム症の理解と看護.これからの精神看護学―病態生理をふまえた看護実践のための関連図(森千鶴監編著),p.298-312,東京:ピラールプレス.

<論文>

- 1) 関根正・竹淵由恵・酒井美子・田村文子.(2015).精神科看護師の職業的アイデンティティへの影響要因.日本精神保健看護学会誌, 24(1), 75-82.
- 2) 酒井美子・関根正・竹淵由恵・田村文子.(2015).精神科看護師が社会に伝えたい精神科看護―精神科看護の専門性確立に向けての一考察―.看護教育研究学会誌, 7(2),3-12.

<学会発表>

- 1) 関根正・森千鶴.(2015,12月):自閉スペクトラム症者の自己モニタリング機能の活性化を促す看護介入プログラムの効果,第35回日本看護科学学会学術集会,242,広島,日本.
- 2) 関根正・森千鶴.(2015,6月)自閉スペクトラム症者に対するデイケアの支援の有効性.日本精神保健看護学会第25回学術集会,160,茨城,日本.

<社会的活動>

- 1) 日本精神保健看護学会第 25 回学術集会実行委員 2015 年 4 月～2015 年 6 月

□看護科学専攻博士後期課程 2 年 阿達瞳

<著書>

- 1) 阿達瞳.(2015).ストレス・コーピング. これからの精神看護学,p.144,東京:ピラールプレス.

<学会発表>

- 1) 阿達瞳・秋山美紀・林世津子.(2015,6 月)ストレングスの視点を取り入れた精神看護学実習が臨床実習指導者に及ぼす影響～2 事例の分析から～.第 25 回日本精神保健看護学会第 25 回学術集会,169,茨城,日本.
- 2) 秋山美紀・林世津子・阿達瞳・廣島麻揚・近藤浩子.(2015,11 月).精神看護学実習において臨地実習指導者が活かしているストレングス(強み)に関する研究.第 4 回日本ポジティブサイコロジー医学会,東京,日本.

□看護科学専攻博士後期課程 1 年 菅谷智一

<著書>

- 1) 関根正・菅谷智一.(2015).自閉スペクトラム症の理解と看護. これからの精神看護学―病態生理をふまえた看護実践のための関連図(森千鶴監編著),298-312,東京:ピラールプレス.

<学会発表>

- 1) 佐藤美央・菅谷智一・森千鶴.(2015,6 月).児童・思春期精神科外来を受診する中学生のコミュニケーションの重要性.日本精神保健看護学会第 25 回学術集会,133,茨城,日本.
- 2) 菅谷智一・森千鶴.(2015,6 月).児童・思春期精神科で治療を受けている中学生の

生活場面間の居場所感の順位.日本精神保健看護学会第25回学術集会,134,茨城,日本.

- 3) 島田知子・荻原香・櫻井朗雄・安齋隼・工藤富士子・萱谷智一・森千鶴.(2015,6月).興味・関心に着目した活動集団療法による広汎性発達障害の中学生の変化,日本精神保健看護学会第25回学術集会,189,茨城,日本.
- 4) 萱谷智一・森千鶴(2015,9月).児童・思春期精神科で治療を受けている中学生の居場所感の特徴.第56回日本児童青年精神医学会総会,神奈川,日本.
- 5) SUGAYA, T., MORI, C.(2015, October).The Relationships among Sense of Belonging, Social Skills, and Self-Esteem in Junior High School Students with Mental Disorders, American Psychiatric Nurses Association 29th Annual Conference, Florida, USA.
- 6) 萱谷智一・森千鶴(2015,12月).精神科を受診している中学生のセルフエスティームに関連する要因,第35回日本看護科学学会学術集会,241,広島,日本.
- 7) 萱谷智一・青木桃子・大西豊史・森千鶴(2016,3月).院外外出に向けたグループダイナミクスー自閉スペクトラム症の小中学生を対象としてー.日本集団精神療法学会第33回大会,千葉,日本.

<社会的活動>

- 1) 日本精神保健看護学会第25回学術集会企画委員 2014年5月~2015年10月
- 2) 日本集団精神療法学会第33回大会運営委員 2014年11月~2016年3月
- 3) 日本看護学会(看護教育)論文選考委員 2015年10月~2016年3月
- 4) 看護教育研究学会 査読委員
- 5) 精神障害を持つ人への看護.東京都済生会看護専門学校 非常勤講師,2015年11月11日,11月18日

□看護科学専攻博士後期課程1年 佐藤るみ子

<著書>

- 1) 佐藤るみ子(2015):Ⅲ医療観察法.平成 27 年版 新・看護者のための精神保健福祉法 Q&A(日本精神科看護協会監修),p.209-219,東京:中央法規.

<社会的活動>

- 1) 厚生労働省社会保障審議会医療観察法部会専門委員 2012 年～
- 2) 日本精神病院協会司法精神医療等人材養成研修企画委員 2005 年～
- 3) 日本精神保健看護学会第 25 回学術集会シンポジウム座長 2015 年 6 月 28 日
- 4) 精神看護学Ⅱ・精神看護学援助論Ⅱ.新潟県立看護大学 非常勤講師,2015 年 11 月 26 日・2016 年 1 月 26 日
- 5) 精神看護学Ⅰ.群馬パース大学 非常勤講師,2015 年 11 月 18 日
- 6) 精神障害を持つ人への看護.東京都済生会看護専門学校 非常勤講師,2015 年 12 月 11 日

□看護科学専攻博士後期課程 1 年 中谷章子

<論文>

- 1) 中谷章子・井田政則(2015).看護コミュニケーション尺度作成の試みー看護スタッフおよび患者・家族に対する看護師のコミュニケーションー.立正大学心理学研究年報,6,53-66.

<社会的活動>

- 1) 首都大学東京健康福祉学部看護学科 非常勤講師
- 2) 崎市立看護短期大学看護学科 実習指導教員

□看護科学専攻博士前期課程 2 年 石塚真美

<学会発表>

- 1) 石塚真美・三木明子(2015,5 月).病院看護師における基本属性と楽観性・悲観性との関連.第 88 回日本産業衛生学会,322,大阪,日本.
- 2) 石塚真美・三木明子(2015,6 月).病院看護師における看護実践環境とワーク・エン

ゲイジメントとの関連.第 22 回日本産業精神保健学会,108,東京,日本.

- 3) 石塚真美・三木明子(2015,11 月).看護師経験年数別における仕事の資源・個人資源がワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響ー看護実践環境、ソーシャル・キャピタル、楽観性に焦点を当ててー.産業看護学会第 4 回学術集会,41,島根,日本.

□看護科学専攻博士前期課程 2 年 小貫衣澄

<学会発表>

- 1) 三木明子・小貫衣澄(2015,5 月).保健医療福祉施設の職員における暴力防止啓発ポスターのニーズ.第 88 回日本産業衛生学会,346,大阪,東京.

□看護科学専攻博士前期課程 2 年 佐藤美央

<学会発表>

- 1) 佐藤美央・菅谷智一・森千鶴(2015,5 月).児童・思春期精神科外来を受診する中学生のコミュニケーションの重要性.日本精神保健看護学会第 25 回学術集会,113,茨城,日本.

<社会的活動>

- 1) 日本精神保健看護学会第 25 回学術集会実行委員 2015 年 4 月～2015 年 6 月
2) 崎市立看護短期大学看護学科 実習指導教員

□看護科学専攻博士前期課程 2 年 島崎龍之介

<学会発表>

- 1) 島崎龍之介・三木明子(2015,11 月).CIS(Checklist Individual Strength)を用いた労働者の慢性疲労に関する研究動向.産業看護学会第 4 回学術集会,47,島根,日本.

□看護科学専攻博士前期課程 2 年 瑞慶山真希

□看護科学専攻博士前期課程 2 年 陳宥伶

□看護科学専攻博士前期課程 1 年 一條晶代

<社会的活動>

1) 日本精神保健看護学会第 25 回学術集会実行委員 2015 年 4 月～2015 年 6 月

□看護科学専攻博士前期課程 1 年 緒方正通

<社会的活動>

1) 日本精神保健看護学会第 25 回学術集会実行委員 2015 年 4 月～2015 年 6 月

□看護科学専攻博士前期課程 1 年 重田ちさと

<学会発表>

1) Shigeta, C., Okada, Y.(2015, September).The Change of Nursing Practice by Utilizing Cognitive Behavioral Therapy. Tsukuba Global science Week.Tsukuba,Japan.

□看護科学専攻博士前期課程 1 年 高村有加

<社会的活動>

1) 日本精神保健看護学会第 25 回学術集会実行委員 2015 年 4 月～2015 年 6 月

□看護科学専攻博士前期課程 1 年 成嶋恭子

□看護科学専攻博士前期課程 1 年 吉田麻美

<論文>

- 1) 三木明子・吉田麻美.(2015).採用者-現場管理者-就職者にとっての Happy workplace イマドキの若者の就業継続を決定づける！書類選考、グループ面接・評価の効果的実施のススメ,看護部長通信,13(5),22-27

E. 国際発達ケア:エンパワメント科学研究室

■教授 安梅勅江

□看護科学専攻博士前期課程2年 野口由美子

(研究生)

喬嘉琳

趙赫

孫晶榮

曹晗

姜俊羽

劉海函

魏晨

(他専攻在籍者)

医学系専攻疾患制御医学専攻課程1年 金春燕

フロンティア医科学専攻 修士課程2年 渡辺久実

フロンティア医科学専攻 修士課程2年 陳文燦

フロンティア医科学専攻 修士課程2年 Yuri Nurdiantami

フロンティア医科学専攻 修士課程1年 伊東花江

フロンティア医科学専攻 修士課程1年 歐陽玲玲

フロンティア医科学専攻 修士課程1年 加藤慶子

フロンティア医科学専攻 修士課程 1年 鎌田彩加

フロンティア医科学専攻 修士課程 1年 坂田美樹

フロンティア医科学専攻 修士課程 1年 Hilda Meriyandah Agil

フロンティア医科学専攻 修士課程 1年 楊亜舒

F. 地域健康学研究グループ

■教授 高田ゆり子

■教授 坂田由美子

■准教授 山海知子

■准教授 吉岡洋治

□看護科学専攻博士後期課程 3年 小尾栄子

<論文>

- 1) 村松照美・小尾栄子・望月宗一郎・渡邊輝美(2016).新任保健師の地域診断実施状況から考える授業内容の工夫.山梨県立大学看護学部研究ジャーナル,2(1).(In Press)

<ニュースレター>

- 1) 私の研究室 Vol.3 私の歩んできた道・これから歩む道～子どもたちと健康・保健室・地球とひとの暮らし～,山梨県立大学地域研究交流センターニュースレターTobira, 5.29, 2015.

<競争的資金>

- 1) 基盤研究(C)H25～H27「通常学級に在籍する発達障がいをもつ児童生徒への健康支援スキル向上プログラムの開発」(研究分担者)

□看護科学専攻博士後期課程 2年 菅原直美

<論文>

- 1) 萱原直美・坂田由美子・高田ゆり子(2016).家族介護者の介護評価と居宅サービス利用状況との関連—要介護 4,5 の要介護者の家族介護者を対象とした横断調査—.老年社会科学,37(4),406-16.

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 岡村あゆみ

(研究生)

胡芳

(他専攻在籍者)

生命システム医学専攻 4年 杉浦京子
生命システム医学専攻 4年 金丸隆太
生命システム医学専攻 4年 成澤 明
生命システム医学専攻 3年 吉田一子

G. 環境看護学研究グループ

- 教授 川口孝泰
- 准教授 浅野美礼

□看護科学専攻 博士後期課程 3年 大石朋子

<論文>

- 1) 水戸優子・大石朋子・芳村直美・小山珠美(2015).口から食べることを支える摂食・嚥下ケアの基本—摂食・嚥下の5期モデルに応じたケア—,日本看護技術学会誌 14巻 1号,38-40.

<学会発表>

- 1) Greiner, C, Isowa, T., Oishi, T., Kita, M., Higashiura, H. (2015, July). Investigation of factors related to nursing care for patients with dementia at acute hospitals in Japan, Sigma Theta Tau International's 26th International Nursing Research Congress, Puerto Rico.
- 2) 水戸優子・大石朋子・芳村直美(2015,10月).半側空間無視を有する患者の食事時の正面位姿勢調整要素の抽出ー観察データの分析,日本看護技術学会第14会学術集会,愛媛,日本.
- 3) 水戸優子・大石朋子・芳村直美(2015,10月).口から食べることを支える摂食・嚥下ケアの教授・学習活動の提案,日本看護技術学会第14会学術集会,愛媛,日本.
- 4) 水戸優子・大石朋子(2015年,12月)半側空間無視を有する患者の食事時の正面位姿勢調整ケア要素の抽出(2)ーインタビューの分析,第35回日本看護科学学会学術集会,広島,日本.

<社会活動>

- 1) 日本健康・栄養システム学会「平成27年度臨床栄養師研修(経腸栄養退院指導の多職種連携)」講師

□看護科学専攻 博士後期課程2年 荒木大地

<論文>

- 1) Araki, D., Kawaguchi, T. (2015). Effect on Cerebral Blood Flow of Using a Power Assist Robot for Standing, *MOJ Anatomy & Physiology*, 1(5).

<学会発表>

- 1) 荒木大地・川口孝泰(2015).ベッド上からの転落予測に向けた重心変動の解析手法の提案,第3回看護理工学会,京都,日本.
- 2) Araki, D., Kawaguchi, T. (2015), Analysis of center-of-gravity variation on bed for fall prediction, TSUKUBA GLOBAL SCIENCE WEEK, 2015, IBARAKI, Japan.

<総説>

- 1) 荒木大地,浅野美礼,川口孝泰 (2015):【遠隔看護とイノベーション-在宅医療の新展開】遠隔看護におけるデバイス開発と応用事例,*看護研究* 48(2),129-35.

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 豊増佳子

<学会発表>

- 1) 豊増佳子・西山直美・内藤隆宏・川口孝泰(2015,7月).遠隔看護システムの開発時に求められる「看護情報学」構築に向けた教育内容に対する一考察,第16回日本医療情報学会看護学術大会論文集,島根,日本.
- 2) 内藤隆宏・浅野美礼・豊増佳子・川口孝泰(2015,7月).地域包括ケアシステムにおける情報専門看護師の必要性和その要件,第16回日本医療情報学会看護学術大会論文集,島根,日本.

<総説>

- 1) 豊増佳子(2015).【遠隔看護とイノベーション-在宅医療の新展開】遠隔看護の歴史と研究の変遷(総説/特集),*看護研究* 48 巻 2 号,112-28.
- 2) 川口孝泰・豊増佳子・西山直美・内藤隆宏(2015).【遠隔看護とイノベーション-在宅医療の新展開】遠隔看護のクラウドベースでの実用化をめざして(解説/特集),*看護研究* 48 巻 2 号,145-51.

□看護科学専攻 博士後期課程 2年 樋本まゆみ

<社会活動>

- 1) 国際医療福祉大学生涯学習センター ファーストレベル 非常勤講師
- 2) 国際医療福祉大学生涯学習センター セカンドレベル 非常勤講師
- 3) 石川県看護協会 セカンドレベル 非常勤講師

<競走資金>

- 1) 樋本まゆみ・川口孝泰:上級看護管理者の自己効力感と看護管理行動との関連,
2013年～2015年度(2016年度延長予定)科学研究費補助金:基盤C.

□看護科学専攻 博士前期課程 1年 伊藤嘉章

H. リハビリテーション看護学/慢性看護学研究グループ

- 教授 日高紀久江
■准教授 柴山大賀
■助教 阿部吉樹
■助教 萩野谷浩美

□看護科学専攻博士後期課程 3年 中村勝喜

<論文>

- 1) 中村勝喜・高木初子.(2015).看護学生の認知症高齢者に対するイメージと影響要因の文献検討.*聖徳大学紀要*,第 26号,17-23.

<学会発表>

- 1) 中村勝喜・高木初子.(2015).看護学生の認知症高齢者に対するイメージと影響要因の文献検討.第 16 回認知症ケア学会,札幌,日本.
2) 木村峰子・高木初子・中村勝喜.(2015).高齢者のエンパワーメントを高める要因.第 19 回日本看護管理学会学術集会,福島,日本.

□看護科学専攻博士後期課程 3年 横山悦子

<競争的資金>

- 1) 文部科学省科学研究費・基盤研究(C)「維持期リハビリテーションを促進する車いす使用高齢者の姿勢アセスメント指針の検討」平成 24 年度～平成 26 年度（平成 27 年度延長）

<社会活動>

- 1) 日本慢性看護学会 評議員
- 2) 日本糖尿病教育・看護学会 研究推進委員

□看護科学専攻博士後期課程 3 年 田中理恵

□看護科学専攻博士後期課程 2 年 工藤順子

□看護科学専攻博士後期課程 2 年 仁昌寺貴子

<学会発表>

- 1) Nishoji, A., Hidaka, K. (2015).Experience of Patients Diagnosed with Connective tissue disease, The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo, Japan.
- 2) 中村薫・仁昌寺貴子・阿部吉樹・柴山大賀・日高紀久江(2015).看護師を対象とした慢性膵炎患者への生活指導に関する質的研究.第 9 回日本慢性看護学会学術集会,大阪,日本.

<社会活動>

- 1) 日本慢性看護学会 評議委員
- 2) 首都大学非常勤講師

□看護科学専攻博士前期課程 2 年 木下知佳

□看護科学専攻博士前期課程 2 年 中村伸

□看護科学専攻博士前期課程 2年 細谷美雅

□看護科学専攻博士前期課程 1年 高田純子

□看護科学専攻博士前期課程 1年 Somayeht Tanha

IV. 大学院生支援

1. 学生数の状況

1) 入学者および修了者数(再入学生を含める)

	入学者数	修了者数		
		(旧)1 学期	(旧)2 学期	(旧)3 学期
博士前期	15 名	0 名	1 名	14 名
博士後期	6 名	1 名	1 名	2 名

2) 在籍学生数、うち休学者数 2016 年 3 月末現在

		在校生数	休学者数
博士前期課程	1 年	15 名	1 名
	2 年	22 名	3 名
博士後期課程	1 年	6 名	0 名
	2 年	8 名	0 名
	3 年	22 名	8 名
その他			
研究生		11 名	
退学者		3 名	

2. 大学院生支援委員会の活動

1) 新入生オリエンテーションの実施 4月7日、16時20分頃～

2) 新入生歓迎会の実施 4月7日、18時～

3) 研究成果発表のための国内外学会等への参加派遣に伴う旅費支援の提案と支援対象に関する審議

申請のあった5名について、審議を行い、旅費支援を行った。

これに先立ち、看護科学専攻の推薦する研修会も旅費支援の対象とする旨、内規の改正を行い、看護科学専攻教育会議にて承認を得た。

4)看護科学専攻における「学生支援対応チーム」^{注)}としての活動

- a. 助産師教育過程の実習やインターンシップへの参加前の学生に対するメンタル面での支援を目的とした面談の実施
10月～1月(複数名の大学院生支援員)
- b.休学および復学志望者への面接・相談 随時(大学院生支援委員長)
- c.指導および学習困難なケースへの支援と面接等への同席 随時
- d. その他

5)その他の活動

- a. 人間総合科学研究科長賞、看護科学専攻長賞候補者の推薦順位付け
- b. キャリア支援担当委員会委員として就職に関する情報の配信

注)「学生支援対応チーム」の役割(学生支援・自殺対策WG報告書(2011.5)から抜粋)《キーワードは、つながる、つなげる、つながりあう》

- 1)保健管理センターなど各支援組織との連携の窓口になる。
 - ・保健管理センター等から学生の件について連絡・相談があった場合の窓口になる。
- 2)クラス担任や指導教員へのサポートを行う。
 - ・クラス担任や指導教員から学生についての相談を受け、一緒に対応する。
- 3)所属する学生の不適応状況の把握と教育組織としての対応を行う。
 - ・履修申請状況や単位取得状況について支援室からなるべく早く情報を得る。
 - ・休学や復学、退学、留年などについての状況の把握と個別の支援・対応策を検討し、実施する。
例えば、 a)学業や研究がうまく進んでいない学生への対応 b)復学のための具体的な支援策の構築 c)留年等により担任が代わる場合には、新しい担任と連携を図る d)休学や退学が頻発するような場合は教育組織として適切な対応を図る

3. 今後の課題

筑波大学は、平成23年度より学生に対して直接指導を行うクラス担任又は指導教員等を支援すること並びに各教育組織において学生対応に係る対策検討等のために、各学群・専門学群、各専攻単位で「学生支援対応チーム」を設置している。看護科学専攻においては看護科学専攻長と大学院生支援委員から構成されている。この組織はこれまで周知されていない状況があった。来年度は大学院生の学業や研究の完遂のための学生生活に関わる支援体制をチームとして取り組む形で強化していく必要がある。

今年度は、学外での実習を控えた大学院生が置かれているであろう不安な精神状態を鑑み、看護科学専攻長並びに指導教員との連携のもとに、対象となる前期課程1年生に対して複数名の大学院生支援委員による面接を継続実施することによって、彼女たちの精神的な支えとなることができた。今後も大学院生が悩みを抱えるも相談することを躊躇し、精神的に孤立することのないよう、複数名の大学院生支援委員による精神的な支援を継続実施していくことが望ましい。

また、平成28年4月より「障害者差別解消法」が施行されることから、大学として障害者に対する合理的配慮が必要となった。これを受けて、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが開設された。平成28年度以降は、大学院生支援委員会も障害の有無、性別、国籍の違い等による差別をなくす対応に取り組む必要がある。

V. 社会貢献と国際交流

国際活動担当 ■准教授 岡田佳詠

平成 27 年度は、協定校である聖アンソニー看護大学、台湾大学、イリノイ大学シカゴ校の 3 校との交流を図った。

まず平成 27 年 6 月 12 日(金)は、主に看護科学専攻の院生を対象に「理論の看護実践への活用」とのテーマで、ケアリング理論の組織における看護実践の統合と地域医療におけるクリニカルナースリーダー(以下、CNL)の役割について、聖アンソニーメディカルセンター看護部長の竹熊カツマタ麻子先生、聖アンソニー看護大学助教の Gordana Demody 先生にご講演をいただいた。その後、学生が主体のポットラックパーティも開催された。また 6 月 13 日(土)は、「これからの看護教育のあり方を考える ―CNL を地域基盤型高度実践としてどう活用し教育するか― 」と題して FD を開催し、聖アンソニー看護大学側からは竹熊カツマタ麻子先生、Gordana Demody 先生他、看護科学専攻からは 11 名の計 15 名が参加した。CNL の誕生した経緯、役割、具体的な実践内容等に関して深め、日本での活用についての示唆を得た。

平成 27 年 8 月 7 日(金)は、国立台湾大学教授 Wen-Yu Hu 先生、講師 Po-Jui Yu 先生、助教 Guey-Shiun Huang 先生をお招きし、看護科学専攻およびがんプロ共催の公開講演会として Wen-Yu Hu 先生に「Advance Care Planning Research and End of Life Care in Taiwan」と題してご講演をいただいた。その後、学生主催のポットラックパーティを催した。午後には FD としてリサーチコンサルテーションを開催、計 12 名が参加し、「NTU と筑波大学間の共同研究や教育の共同について」、また「緩和ケアに関する研究等について」のディスカッションを行った。

平成 27 年 9 月 28 日(月)から 30 日(水)には、Tsukuba Global Science Week(以下、TGSW) 2015 が開催され、看護科学専攻からは米国イリノイ大学シカゴ校教授の Tonda Hughes 先生をお招き、公衆衛生・看護セッション「Building Research Capacity in Global Health: Opportunities and Challenges」のテーマにおいて「Global Nursing Partnerships to Address Local Health Problems: Building Educational and Research Capacity in Low and Middle-Income Countries」のタイトルでご講演をいただいた。講演

後は、国立台湾大学教授の Chang-Chuan Chan 先生、オーガナイザーの筑波大学教授の市川政雄先生とのディスカッションを行った。また、TGSW 前日には「How women and nurses can play a more active part in our global society」について FD を開催し、数名の教員が参加した。さらに院生を対象に、「How Women and Nurses Can Play a More Active Part in Our Global Society」のタイトルでご講演をいただき、その後、学生主催のポットラックパーティを開催した。

今年度は、前年度に比べて協定校との交流を盛んに行い、学生・教員ともに非常に多くの刺激を受け、多角的でグローバルな視点での見方も広がり、今後の教育・研究にあたり有用な示唆を得た。次年度も引き続き、積極的に国際交流活動を行っていきたい。